

# 地域包括医療病棟入院料の活用へ ケアミックス推進のポイントとは

医師の働き方改革や医療DXへの対応が注目された2024年の診療報酬改定では、高齢者の軽症・中等症疾患への対応を強化する為に「地域包括医療病棟入院料」が新設された。救急患者等を受け入れると共に、リハビリや栄養管理、在宅復帰等の機能を担う病棟に対する報酬だが、現場からは戸惑いの声も聞かれる。病院のデータを分析しながら地域包括医療病棟入院料の導入を踏まえながらケアミックスを上手く活用し、経営改善を図っている東京都健康長寿医療センター・診療情報管理室保険指導専門部長の葦沢龍人氏に「データで考えるケアミックス」と題し、データ分析の手法や制度活用のポイント等について講演して頂いた。



葦沢 龍人氏  
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター 診療情報管理室 保険指導専門部長、東京医科大学 客員教授・名誉教授

## 挨拶



**原田 義昭氏** 「日本の医療の未来を考える会」最高顧問(元環境大臣、弁護士)

今回のテーマは「データで考えるケアミックス」ですが、私は以前、厚生省(当時)の政務次官を務めていた事が有り、厚生行政の中で分析統計というもの如何に難しく、数字が行政にとって大事なものであるかは理解しているつもりです。早80回を数えるこの勉強会で、改めてしっかりと勉強出来る事を最高顧問として心から誇りに思っています。



**三ッ林 裕巳氏** 「日本の医療の未来を考える会」国会議員団代表(衆議院議員、元内閣府副大臣)

医療費の抑制や効率的な医療提供の観点からもケアミックスという施設形態には大いに関心が集まっています。詳しくはホームページをご覧ください。葦沢先生の今回の講演が学びの深いものとなる事を期待しています。

続きを読むには購読が必要です

